

大正... 調査... 報告...

三... 十...

大正
極密

日支軍事協定ヲ秘密院ニ
附送スル件ニ付テ

政務局長

次文七

第一回乃至第三回日露協約、日英同
盟協約、日佛協約、日米協定（所謂
高平止取極）ハ總テ調印差ハ公文
交換後極密院ニ報告セラルニ止マリシカ

MT

211 42 166

2-0020



其後大正四年、倫敦宣言加盟問題以
外務省

未此、英ニ関シ、樞密院例ノ故障ヲ招
クニ至リ、遂ニ大正五年、日露協約ハ先
例ニ反シ、誦印前、樞密院ニ付議セシレ
其通過ヲ俟テ、誦印ヲ實行セリ然ルニ大
正六年、日米新協約ハ公文交換ノ形式
ニ據リタル爲メ、樞密院ニ其交換後報告ニ
モシタルニ止マリシカ、其後^現内閣ニ於テハ重要ナル國
際條約ヲ其形式カ協約タルト交換公文タルト

MT 211 42 167

2-0020

0112

ラ区別を調印差の交換前樞密院ニ付
 議スルノ方針ヲ定メ^{了解ヲ生スルニ至ラシム}現ニ東支鉄
 道譲渡及松花江航行権ニ関スル交換
 公文並團匪事件賠償金五年間償還
 延期ニ関スル連名公書ハ孰レモ交換差
^{署名}前樞密院ニ付議セラレタリ
 仍テ今回ノ日支軍事協定ハ其形式カ
 協約トシト交換公文トシテ問ハル調印
 外務省
 差ハ交換前樞密院ニ付議スルノ手續
 ラ執ルコトヲ^{極力}期スルベシ

MT

211 42

169

MT

211 42

168

2-0020

0113

第3門

07046

明治十七年三月十五日 警務局 第一課

公第 六九 號

大正七年三月七日

在支那 修傳代經公使芳澤謙吉

外務大臣法華博士于齋本野一郎 殿

日支因支、内、外、各報、海、陸、軍、各、件

三月七日、日、報、鐘、報、ハ、支、那、ト、日、本、ト、關、シ、別、紙、ノ、如、ク

海、流、リ、其、要、旨、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

實、ト、シ、日、本、ノ、表、示、ス、ル、意、ハ、日、支、ノ、交、善、提、携、ニ、ハ、確

MT

211 42- 171

MT

211 42- 170

2-0020

0114

支那と日本

三月七日 晨報

此後以前世人ノ極東問題ノ研究ニ著者支那問題ノ研究ノ以テ其前被レ為セル十餘年極東問題ハ全世界上極重要ノ問題トシテ支那問題ハ極東問題ノ最要地位ヲ占メ極東問題ノ解決セシムルニ於テ先シテ支那問題ノ解決セシムルニカギアリシニ直言セシ支那問題以外他ノ重要スル大問題ノ世人ノ心直捷ニ煩ハス、是レヲナレバ謂フニ故、近數十年來列強ノ極東ノ外交、注重セサレテ支那ノ前途、度々列強ノ競争ノ角逐ノ場トシテ其ノ政變以前然ルニテ將來此後以後皆、益々其ノ重要ナルナリ

極東問題支那問題、早晚解決ノ日アリテ折々

在支那日本公使館

何ノ邊、由多ク以テ之ヲ解決スニシテ解決ス者是レ我々極東人ノ責、爲ラズヤ否抑、極東人以外尚々他人、頼ルニカキテ其ノ責任今何處ニ在リ乎、此ノ所謂支那ト日本トハ所謂同文同種極東、並峙スル獨立國、然レカ後、日支兩國ノ關係ヲシテ、親善ク於レシ左提右挈相互扶持セシムルヲ、西國ノ福、ニシテ至、極東ノ幸トシ、日本ノ支那ノ對ニ能ク變ハレテ如何

支那ノ一方ノ言ハハ我々日本ト比隣ニ遠ク他國ノ能ク比擬スルニ非ズ、壞境大牙相錯リ人民交際往還接福ノ途、多ク交渉ノ榮、日、夥タルニ試、有テ交渉案件ヲ觀シテ日本トノ交渉ハ十ノ六七ノ在ノ他國交渉ノ十ノ三四ノ、毎、交渉ノ日本

MT

211 42

173

MT

211 42

172

2-0020

0115

ハ強格ノ情トシテ我ハ臨マサルナク我ハ屈服シテ日本ノ
 為サレテ破ラレテカサレシ得ヌ故ニ我カ進來受ク
 リテ外交上ノ痛苦ト屈辱トハ其ノ他國ヨリ受クル
 ハ十ノ三四ニシテ其ノ日本ヨリ受クルモノハ蓋シテ十ノ六七
 ナリ日本ノ一方ヨリ言ハテ堅ク外ハ向ヒ答答レシテ其ノ
 勢力ノ扶植ヲ謀リ以テ其甚食レ其勢力ノ扶植ヲ
 密ルニテハ支那ノ若シキナシ其ノ朝野上下カ日々研
 究ニ對テ外交ハ如何トシ在支政治上ノ勢力ヲ謀
 得ル如何トシ在支經濟上ノ勢力ヲ謀ルキニ存ス
 國ノ強レシテ至ラサレ即チ爾ノ日本ノ對支關係外
 外交ナトシハ亦多ク過言ノ弊ニ更シテ之ノ進言セハ其内
 政種々施設ノ痛ニ事トシテ支那ノ幾分ノ關係ヲ
 与ラセテ其對改革多國外交又々多ク支那問題ノ為

在支那日本公使館

ノ發生スル間接問題ニ非ラレ其否トサレ者ハ重要ノ
 關係ナキモノニナリ

日支西國ノ關係ハ則チ既ニ其ノ如ク日本對支ノ態度
 則チ又彼ノ如ク其ノ最モ多ク備ヘ以テ形シ忘ル、然レモ
 ノ好教訓ハ即チ其ノ前ニ提出セムニテ今條ノ要求是
 ナク是ヨリ以後支那人ノ有識者ノ日本ノ對支
 懼交係ト未ダ其抱ク心ノ如何ノ知ラサルナリ
 更テ未ダ知ラス其ノ我國ノ何ノ地ニ置カレカ
 其無識者ハ日本ノ對支情ノ過ムル結ムル則チ其
 無識者等ヲテ日本貨ノ排弁シテ經濟上ノ報復
 ヲ爲ス要之我國ハ有識レ無識ノ人ノ海ナク其ノ日
 本ノ對支情ヲ覺失シテ傳來トシ消滅レ易カラサレ
 一種ノ遺恨ヲ有ス者儻譯ムク容シサレ日本ノ

MT

211 42 175

MT

211 42 174

2-0020

0115

譯ノ能ク覺悟シ切望スルモノナリ
 近二年日本ノ人ハ何ヲ嘗クシテ支親善ヲ爲シ
 携ノ後ノ有セザラシマ之ヲ愛樂ノ被ラレ、毫モ効果ナシ
 其故何ゾ、則チ支那人ノ日本、対スニ歴史ノ傳承ノ
 遺傳未ダ能ク消滅セザレ故ナリ、我因政府ハ縱ニ能
 ノ我因人ノ日本、対スニ益謀ヲ奉勅シ過制ニレ由トス
 又豈能ク我因人ノ日本、対スニ歴史ノ遺傳ノ消
 滅セシ、其種ノ遺傳一ヨ未ダ消セザレ、則チ日本又氣
 善ノ振興ノミナシ、未ダ人ノ能ク抑信ヲ釋スル
 能ハズ者ナリ、今ヤ露独權和ヲ推軍ハ露獨過激派
 レ共、軍トシテ、乘レ極東ニ擾亂ス、首トシテ其禍ヲ
 受クル者ハ支那ナリ、此トシテ、佳東ニ支那ナリ、
 伴ダサレ、日本又豈能ク獨ニ存セシ、西支西回ノ方、
 在支那日本公使館
 出兵防衛同ク、外侮ヲ禦ク、專ラ西回軍隊ノ能ク
 共同行動ス、キ、一、更テ、西回人民ノ同心同徳、待
 ツ、テ、西回軍隊ノ共同行動ヲ欲ス、難カク、サ、西回
 人民ノ同心同徳ヲ欲ス、ハ、支、難シ、蓋シ、我因人ノ今日
 、於テ、一面ハ既、推遷ノ機、垂シ、我カ邊境ヲ擾ス
 シ、畏ルモ、其、一面ハ、日本、時、臨シ、他謀、アル、其、
 日本ノ畏ル、ハ、心ハ、實ハ、其、推遷ノ畏ル、ハ、念、一、滅セ、
 日本ノ畏ル、ハ、一種、明確ノ表示、ア、能ク、我因人、シ、
 其、失、上、傳承ノ、遺、傳、ノ、消、滅、セ、ル、者、ナ、リ、
 我、善、ノ、種、ノ、言、フ、キ、ナ、レ、今、チ、我、因、人、ノ、
 況、象、ノ、過、チ、其、貌、合、シ、神、離、人、ノ、免、レ、
 レ、ハ、則チ、西、回、日本ノ、明確ノ、表示、ナ、ル、者、
 如何、即、チ、年、
 之、終、ニ、日、支、間、各、種、交渉ノ、總、案、ノ、完、結、ス、
 其、果、ナ、リ、

MT 211 42 = 177

MT 211 42 176

2-0020

0117

夜ハ霜ノ大吉内題、滿州、於ハ課稅整定
 内題及ハ最近ノ山東氏政署内題、如キ日本ハ
 讓歩スル者ハ讓歩シ、裁撤マシ者ハ裁撤シ、支
 向ノ暗害ツ一掃、トシテ其關係ヲ改善スル
 其機、存シテ其機、存シテ

MT

211 42 178

2-0020

0118

考

大正七年三月十五日 駐政務局

第 一 課

別紙添

公 第 七 〇 號

大正七年三月八日

在支那

臨時代理公使 芳澤謙吉



外務大臣陸奥博士于附本号一即致

署謹茲接洽送付ノ件

三月八日晨 陸奥ノ所報「日本支那ノ接洽ノ指
ノ即ノ別紙ノ函ノ要ニ、露國ノ媾和ヲ遂行シ、
極東ノ及チ影響ノ廣ク支那ノ向身ノ第三
者ノ地位ノ置キニ及リ、其間ノ以テ、對シテ多大ノ
恩惠ナルヲ口吻シ、及シテ其間ノ擾亂四カノ如

在支那日本公使館

何ハ之ノ腦後、置イテ、日本ノ野心、汽ノ毒
毒痛説ヲ播ケラ、其共同動作ノ露國トシテ、海峽問題
山東問題、日本ノ進歩ノ希望ニ、領ル勝手ノ海
法トシテ、要ス、支那人劍強、政府外交、部劍ノ懸
引希望レ、以テ、支那ノ昨報前論、係セ、御
関意相及度生、及チ、其ノ進歩

07047

MT 211 42-180

MT 211 42 179

2-0020

0119

支那ト日本

三月八日午後七時終稿

露独ノ關係ハ此ノ事案ト成リテ西國ハ一切在版ヤノ其後
 ノ西國カ吾人ハ全ク無事ノ勢カニ取田ハ入りテ其ノ其言
 セザルニ復タ振救ノ機ナシ然カモ安ソソ若干部令ノ
 精意ノ同化ノ精意カノ其能軍ニ取田トナリ其利便
 元ノ露トナリナキソ件モ其ノ精人在露ノ勢カニ常固シ
 振保ノ事トシテ振タヘカラスルニ為ルニ其ノ侵略ノ野
 心アレハ今ヨク機ニ集ル東下取ルニ難カク即チ今ヨク
 タ遠回ニ遣テラセテ市降ヤノ露田ノ倚リ後日東
 遠東經營ノ振振地ト為セテヨク露國兵前日本全
 國上ノ直意カモ吾人ハ露國ノ東漸ハ支那及日本ノ
 危及スル一途シテ露ノ勝ツ機ニ安ソソ得
 シ今ヨク其ノ豈料スレト十年後其意露國建ルニ為
 在支那日本公使館

スルノ露ニ在リテ独ナラレハ且ク独カ 露ノ機ノ遠
 東ノ經營ニ集ルハ 尤ノ優ツ勝ク其カ 妙ノ其勢ニ若
 ノノ露ニ視ク其美ツ畫ノ十倍ノ一ナリ昔ヨク露ハ日本
 獨力固レ優レ之ヲ与セテ若レ今ヨク独ヲ防カレ欲スル
 シハ日本独力ノ結ヲ勝ツ處ニ此ノ才ニ然ルニ則チ日支西
 國ノ同心異力カノ言ニルニ外別ニ他途ナシ其レ日支西國民
 ノ宜シク其ノ警覺スルニキカキナリ

日支ノ努力ニテ独ヲ防カレ欲スル西國軍事ノ共同ニ
 在ルニ西國人心ノ團結ニ在リテ一國ニテ前ニナリテ其
 獨ノ覆ルニテ同仇敵愾ニ精意ヲ展ニシテ其ノ其勢ニ
 シテ獲レテ欲スル徒多ク之ノ支那一方向ノ責ムカラス其
 徒ノ之ヲ日本一方向ノ責ムカラス其レ西國民ノ其國事
 任テ西國政府出兵自衛ノ策ニ決定スレ其レ其レ

MT 211 42 182

MT 211 42 181

2-0020

0120

本國論に其改先ノ主張 慶正ハ高キ一致スレシ
後急復退ノ説アリ彼ノ主張紛岐ハ其他ノ作中ノ
合有スヤ否ハ吾人ノ知レズ然レモ若シ我ノ國論カ
其事ノ社論ニ此致シ守上其答取以テ吾儕出ス
自衛ノ急務スルヲ知ラザレバ此ノ爲メ既ハ出ス人
自ラ日本ト共同セザレバ既ハ日本ト共同セザルニ
安シク其他ノ枝節ヲ出セザルヲ保セシ事後安シク
其他ノ要故有ラザルヲ保セシ故ニ敢テ輕シク主張サ
ルナリ蓋シ青島義後日本カ二十ノ條ノ要亦ノ提出
ニ我ニシテ驚ラノ事多シム天壤ノ大差トシテ是様有
ラザレバナキニ以ラス故ニ其聲ヲ戒ヒ懼レ心ハ一刻ニ懐
ク去ル能ハス故ニ日本ハ強硬ノ態度トシテ我ニ臨メハ
我ハ固シ義々競ヘテ即チ日本ハ區和侍度ヲ以テ人

在支那日本公使館

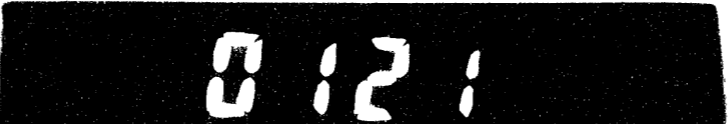
我ニ臨ムニ我々亦ク義々競ヘテ今日事急ナリ即チ
共同行動スル外別途ナキヲ明知スモ或ハ并日事
ニ對シテ其ノ他ノ野心ナキヲ明知スモ然レモ將信
將疑且ツ前ミヨク却テ者別チ歴史上ノ遺痛未ダ
盡ク忘レズ口支義善ヲ証憑未ダ即チ晴カク故チ
我儕トシテ其歴史上ノ遺痛ヲ痛感セシメテ先
シ吾人ノ手スルニ支義善ヲ証憑シ以テマ今口高ク
能ク機ニ垂レ支義善ヲ辨決スル特ク吾人ノ
シテ既ニ此事ヲ釋然トシテ吾人ノ安シク後傾
我々ナカラントシテ吾人ノ以テ放ク重ネテ日本ノ
望ニサシク得ザルナリ

MT

211 42 184

MT

211 42 183



参

10月20日

附類書類

明治七年三月十六日

駐露

第三課

別紙添付

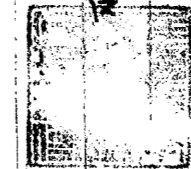
公第 八一 號

案

大正七年三月九日

在支那

修得代理公使芳澤謙吉



外務大臣法學博士于野本野一郎 敬

原録報三續海送付件

三月九日原録報「支那」日本三續海、揚出
サリ本海、於ラハ、西國共同出兵、言及
レ、西國清島兩役、於今、日本軍隊行動
之、面領レテ、形勢、共同動作、執イラ、幾分、致
悞、之、能ク、各人、之、表モ、我、國、人、之、結、透、將、意、来、ク

在支那日本公使館

候、サ、レ、エ、ク、聞、イ、ク、夏、ノ、月、本、將、出、兵、シ、テ、推、進、シ、

防、カ、レ、エ、ク、聞、イ、ク、益、シ、夏、ノ、月、之、り、委、任、ハ、前、西

篇、ト、連、續、シ、由、情、相、成、之、故、及、シ、形、勢、也

MT

211 42 186

MT

211 42 185

2-0020

0122

支那ト日本 三續前 三月九日 岩倉電報

今西國出兵其旧行動を以て後述前報に比し則ち出
去前山岳後西國情勢ノ注意スルに少ナカラス請フ
得ク之ヲ略述ス

大ニ出兵セザルに已ム一旦出兵スル西國ノ責任ハ輕
重ク分ストシ且其地ヲ彼其武力強弱ノ別カラス
之ヲ以テ出敵ハ自ラ多寡ノ異同有ラズハ其
同仇敵愾ヲ爲ラ前驅シ自ラ日本軍ヲ以テ中堅
ト爲シ支那軍ヲ以テ後隊ト爲スル又又又又又又又
待タズ者ヲ吾儕ハ軍事家ハ非ズ軍事家ハ又又
實ニ我密ナシハ凡ク將來西國出兵ノ軍事上ノ行動
及出兵地域ハ今日此詳ニ由ナキハ要之、桂
勢ノ東漸ク防カレ故ク則チ東部西北利里支

在支那日本公使館

即西北境及朝鮮北部一帯ハ在々須ク嚴防ノ
設ク、其防地ニ達シテ各處皆テ日本軍隊ヲ
以テ中堅ト爲セカ抑テ其支那軍ヲ以テ自ラ其邊
境ヲ守ラカモ忘ルベシ也一ノ支那ハ既ニ
頃シ滿蒙方面ヲ警備セハ新疆伊犁又竊ニ其
ノ積ニ流費スル者兵力ノ以テ高不足ク則チ滿蒙
ノ防備ハ我々日本軍ニ委託シテ其分ヲ担任セヨ新
疆伊犁ハ完全ニ我々担任セカ是亦注意スル
者ニテ西國軍隊共同動作スト宜ク日本軍ハ
已ニ中堅トシ我軍ハ後隊トシテ我々唯テ日本軍
首尾時其附屬品トシテ之ノ備ハ我々其等ノ責
任如何ニ關シ守地ノ合防ハ如何ニ關シ是レ
ハ各專責有ラズ呼應重疊ラ指臂聯袂切

MT 211 42 188

MT 211 42 187

2-0020

0123

ン收クキカ是又は是スハ音三ナリ口支西國ハ人感
 情今ヨリ未ク尽ク融治セズ日本ノ支那人ノ対
 名多ク一種輕侮ノ心アリ支那人ノ日本ノ對スル
 亦一種猜疑ノ念アリ事ニ違ハ編發ス克ク制
 止スナレ不事ナリ日本軍人支那出兵數ノ微ニシテ
 以テ甚數スル是又スレテ益シ其輕侮ノ状態ヲ
 流露シ支那人ノ輕侮ヲ受ケル、固ク益ク憤
 防ナ何ク結テ行動ノ其モト考弊ヲ免レシテ
 西國告命ハ宜シク日ノ其軍人ノ對テ訓戒シラセテ
 申徹レ得ム、礼澤ノ道ヲ以テシ曉ス、利害與
 ハ共ニテ、親ク以テシ其輕侮猜疑思想ヲ釋カレ
 ヲ煥然其面目ク一新セシテ其ノ注意スルキト
 在支那日本公使館
 四十年前日露戦後其滿洲ニシテ其戰場ト名
 之青島ノ後我カ山東ノ其戰場トシ我カ滿洲
 山東鄰近戰場ノ各氏其事ノ痛苦ヲ飽受セテ
 ナク即チ鄰近戰場ノ各氏、此レハ亦同ク他處ノ殃
 ヲ受ク日本軍ノ騷擾強制ノ微甚如キ論スル
 ナレ其最ト甚シキ者ハ日露戦後ノ如キ我レ本ト
 先シ滿洲ノ存シ一定ノ行兵路線ニ由リ我レ後
 区域トシ割出セテ欲シ青島ノ戦後亦多ク其レ
 日本軍ハ往々此等区域以外ノ軌道ニ我レ抗
 スレ吾レ日本軍ハ向カサレ置テ待テ、西軍ノ
 衝突ヲ致成セリ幸、我レ退讓持重免ムシ待
 多ク其レ茲ノ行事ニ甚々其レ同前、存ク實ニ西國
 民意ヲ入嚴重大辱回ナリ故、我レ國人ハ狂色ヲ待

MT 211 42 190

MT 211 42 189

2-0020

0124

遠東ノ侵サレヌク岸インノ憂ハ日本ノ待ハ出兵トシテ
 推送ク防カレトモソ岸インノ益ハ憂フ蓋レ皆ナ日露
 青島西康後ノ釐ノ未メ結シ忘レサルノハ吾人ハ為
 ラシ西國情向ハ出兵ノ務ムル事ヲ前移メシ置ク
 思慮内詳互ニ切實ノ辦法ヲ訂シ出兵ノ終極
 ハ移ラシ頻ラシ画清スルヲ防ヌノ区域ハ移ラシ
 頻ラシ画清スル即チ臨時終レ感カヤク変更スルニ
 井タ忘サレカノヲ我田ノ外ニ出ラシルヲ待テ軍
 ノ取締軍紀ノ最中ニ至クハ更ノ一忽ニスカスル
 是遠スルナリ
 嗚呼驚濤萬丈因テ海舟ノ覆ト刈テ胡越ノ人
 コレ一家ノ情ナク多動敵前ニ在リ命ヲカカ遠
 東危急存亡ノ秋、浩々遠東ノ平和俾テサレ何ノ
 支那カアラスレ何ノ日本カアラスレ吾人ハ西國情ヲ換重
 ノ憂道ク切望セシテ得ス更ラシ西國人民ノ形域ノ
 分隸スル切望セザルヲ待テ

在支那日本公使館

MT 211 42 192

MT 211 42 191

2-0020

0125

電報

政務局長

第一課

本野大臣

在支 芳澤代理公使

(極秘)

才一七一号 往電第一五八号ニ関シ

本件軍事協定成立ノ上ニ支那當局

憲トノ同ニ協同措置ニ付協議ノ任ニ當ル

外務省

ハキ我委員トシテ陸軍側ヨリハ少将宇垣

一成・中佐本庄繁・少佐川崎吉五

郎・大尉山田健三・四名、海軍側ヨリハ

少将吉田増次郎・大佐伊集院俊

同樺山可也ノ三名ヲ委員地ニ派シ

ハルコトニ決シテ同委員一行ニ於テハ

特行事項外間ノ可目ヲ引クカ如

キコト之ナキ様又同委員ト支那友室トノ

送第一二七七號
七年三月七日 〇時分發

MT 211 42 194

MT 211 42 193

2-0020

0126

協議、根本、軍事協定成立、上ニテ
 開始ス、^{陸海軍大臣}、夫々、該
 委員、内達方取斗置ケル御合込、
 亦、印件之、閣元公文交換、^{之、印、連、}
 家、^{印、連、}、^{印、連、}、^{印、連、}、^{印、連、}
 公使、^{印、連、}、^{印、連、}、^{印、連、}、^{印、連、}
 内容、^{印、連、}、^{印、連、}、^{印、連、}、^{印、連、}

外務省

MT

211 42 195

2-0020

0127

夕 雁 雀

去歲七月十八日午以八時 章公使持系

公文交接、形、日本、提、
防、手、寫、希、望、之、閱、保、

秘

送回付了

一、中國政府及日政府因敵國實力之日見蔓延於
 俄國境內其結果將使遠東全局之和平及安甯受
 侵迫之危險為適應此項情勢及實行兩國參
 加此次戰爭之義務不能不早協同考量應行
 之處置

二、依前項所述經兩國政府合意後因實行決定之
 事凡兩國陸海軍對於此次共同防敵戰畧之範

MTI 211 42 196

2-0020

0:28

馬日本國公使館
團應行協力之方法及其條件由兩國當局官憲
協定之該當局官憲對於相互利害問題互相詳
慎誠實隨時協議並由兩國政府核定俟時機
實行

MTI

211 42 197

2-0020

0129

本

三月廿八日 早公使村来

此文之趣与公文交接亦宜

此次兩國因共同防敵業經互換書信此項書信之
有效期間應由兩國軍事當局商定至因共同防敵
日本兵隊在華境內者俟戰事終了後所有日本
隊一律由華境內撤退特此聲明

MTI

211 42

198

2-0020

0130

在野

極秘

小公侯

急

文書課長



大正七年三月十八日 接受

大正

七年

三月十八日

附 大正七年三月十八日 發給

機密

送第

號

主任

第一

主管

政務局長

本野大臣

大島陸軍大臣

加藤海軍大臣

拜啓陳者目下 改組南政府 閣下

議進行中 軍事協定 成立 上 使那

外務省

軍部内閣高議 閣下 閣下 閣下

貴省 閣下 閣下 閣下

有七條 閣下 閣下 閣下

理公使 閣下 閣下 閣下

軍部 閣下 閣下 閣下

目下 閣下 閣下 閣下

支那 閣下 閣下 閣下

定成 閣下 閣下 閣下

MT

211 42

200

MT

211 42

199

2-0020

0131

中ノ通ニテ義ニ修得者ノ其也誤解
 係ト何ノ誤リ
 卷名
 本邦用義多一行ニ御内達
 度
 比政界ノ是等修敬具

外務省

MT

211 42: 201

2-0020

0132

39

電信課長
生

大臣

次官

林

野
外
務
大
臣

林
公
使

暗
北
第
三
七
四
号
三
月
十
八
日
三
三
三
の
如
右
着
上
の
事
に
付
テ
此
の
如
く
申
上
ス
ル
事
に
依
リ
テ
此
の
如
く
申
上
ス
ル
事
に
依
リ
テ

政務
通商

第三七四号
至急
極秘

陸
外
交
總
長
ニ
向
合
サ
セ
タ
ル
所
儀
ニ
付
テ

人事
會計

陸
外
交
總
長
ニ
向
合
サ
セ
タ
ル
所
儀
ニ
付
テ
修
正
シ
タ
ル
大
体
帝
國
政
府
提
議
ノ
通
リ
ニ
テ
公
文
交
換
ノ
形
式
ヲ
取
ル
様
三
月
十
七
日
章
公
使
ハ
訓
電
ヲ
發
シ
タ
ル
趣
ナ
リ

文書

參政官

副參政官

MT

211 42 202

2-0020

0133

極秘

(譯文)

一 中國政府及日本政府、敵國實力、日
 露國境內ニ甘受運入シ其ノ結果將ニ遠
 東全向ノ平和ヲ妨害シテ侵迫スルノ危険
 アラハシムル此ノ情勢ニ應ジ且兩國ハ此
 次ノ戰爭ニ加リ義務ヲ實シセリカ爲連
 協同ニ行フヘキ處置ヲ考量セリトシ

外務省

らる

二 前項述レタルニ依リ兩國政府ノ合意
 ヲ至急後決定ノ事ヲ實シスルカ爲凡テ
 兩國陸海軍、此次ノ共同防敵戰畧
 ノ範圍ニ付協力ヲ行フヘキカ爲法及其條
 件ハ兩國當局官憲アリ之ヲ協定スヘシ
 該當局官憲ハ相互ノ利害問題ニ付互
 ニ慎重詳實ニ隨時協議シ茲ニ兩國

MT

211 42

204

MT

211 42

203

2-0020

0134

ルモノトス
政府より確立シテ時機ヲ俟テ実行ス

外務省

MT

211 42 205

2-0020

0:35

此次兩國之共同防敵ノ爲ニ是ニ公文
ヲ交換シ至ルカ本々又、有効期間ハ兩
國ノ軍事當局ヲ議定スヘシ共同防敵
ノ爲ニ日本軍隊支那國境内ニ在ルモノハ
我軍終了後ヲ俟テ日本軍隊ハ一切
支那國境内ヨリ一律ニ撤退スヘトシ
特ニ茲ニ聲明ス

外務省

MT

211 42

206

2-0020

0136

奉返す

雑文5447

大正七年三月十九日 接

駐政務局 第一課

電報

参謀総長宛

在

三月十七日午後六時三十分
十六日午後五時四十分
斎藤少将

支極秘一五六号

殺せ置り昨日國務會議ノ結果ニ就キ陸及曹両総

長ヨリ總統ニ報告シタル所總統ハ之ヲ裁可セリト曹如霖

ヨリ通知リ候テ章公使ヘ返電ハ既ニ發セラレタルナリ

ト本職ニ通知シ奉レリ

陸軍

MT

211-42

207

2-0020

0137

極秘

機密5445號

大正七年三月十九日發受

駐政務高

第一課

電報

三月十七日午後五時五分發
同十八日午前五時十分著

參謀次長宛

在

齋藤少將

支極秘第一五三號

貴電第七十五號ニ関シ段甚貴ノ語ル處ニ依テ六支

那政府ヨリ章公使ニ電報スルハ件ハ昨十六日ノ國

務會議ニテ決定シ陸徵祥ハ曹如霖ト共ニ直ニ

大總統ニ報告シ既ニ發電シタル筈ナルモ尙ホ自分

ヨリ外交部ニ確メタル上發電ノ有無ヲ本職ニ通

知ス(シト)右取敢ヘス

陸軍

MT

211 42

208

Handwritten signature/initials

2-0020

0138

07539

附屬書類添付

大正七年三月十九日

公第

八五

號

了

第

案

別紙添付

大正七年三月十三日

在支那

臨時代理台侯 蔭 澤 讓 吉

外務大臣澤澤博士子爵本野一郎殿

展轉報五續滿是付ノ件

三月十三日展轉報人支那日本ノ五續滿ノ指
要人口支共同行動ノ至難ノ致候レ事ノ後
其共同ノ對立ノ事ノ内等ノ利益ノ得レ共ノ致
候事ノ事ノ委經別紙ノ致斗御詳査相成候
由候及報生

MT

211 42

209

2-0020

0139

支那下口書

五續編

第陸三月十三日

三月九日倫敦電報云自六日事政府西比利亞出多計
 画ハ已ニ決定セシト惟テ英國政府ハ實向クニ事ハ
 西比利亞出多兵ハ何處ニ止境トスルニ支那ト英國
 行動ハ得テ如何ノ關係ト見カレ付キ事ヲ日本政府ノ
 決各ノ情ヲ以テ最モ重要ノ西内題トシテ特イテ
 本政府ノ一待回答カタキトシテス 即チ吾人ト事
 敵ノ係カク妄評ヲ加スルノ内題ハ軍事秘密ノ對
 外ニ傳テ得テ海セカレレニ内題ハ特イテ支那國ノ
 衣ニ洋カク研究ノ如クキノ一トス 即チ英米佛伊
 國々其々一良法ヲ得テ以テ解決ヲ難スレテ者
 今清ノ吾説ヲ略説シテ英政府ノ注意ヲ促シ英
 英米佛伊日等諸國ノ選擇ヲ望ム

在支那日本公使館

此兵 在支那日本公使館
 ト多クニ英國ノ出多 慎重態度ヲ持テ日本ノ四音ヲ得
 ル、物々決定シ無クストスルハ何故ヲ申シテ且チ利權
 内題ヲ傾應スルハ實ハ口支共同行動ノ時
 早シク時々何等ノ糾葛ヲ生ズヤシ 傾應スルハ存
 口支共同行動ノ後又時、何等ノ障礙ヲ發生スル
 ヤト要ハ今日ノ紛々進ノ料ニ處テ此トス 一、レヲ以テ
 不祥ノ現象トシテ、改革各國在遠東獲得ノ
 權利ハ内ト不安ヲ感シ遠東ノ大局トシテ 尋常事務
 トシテ解シムルヲ欲シ、我知ルル如ク遠東ノ及ハレテ傳文
 那ノ存亡固レトシ難ク日本亦多安トゾ能ク以テ自
 ラ保タシ 協高國ハ其既得ノ權利ノ計ハ遠東大局ノ
 計ノ多ク、其本題ハ紛々サレハ能ハサレハ

MT

211 42

211

MT

211 42

210

2-0020

0140

正西田々 姓ヲ訪ク、同クシテ其生名聞件ヲ解決スノ標
 的タルレ、レ唯時リ吏事事「其同行動ノ種々種
 内聚ハ固ト人トシ「時決着シ難カシム 其同行動ノ
 難題多シト云テ 其重大之題ハ更々 其同行動ノ
 後各人ハ深ク慮ム 故ニ權利義務分明分劃ス
 ル 然レモ同ノ事執、故致スコレク 更々、慮ム 其同
 行動後 其同ノ利益、受ケスレシ及
 シ 其同行動ノ損失、蒙ラレコレク 是レ以テ更々、
 其同ノ事執決ス之、懐ク又 懐ク、於ケルシ得ルシム
 云々

在支那日本公使館

MT 211 42 214

2-0020

0142

極秘

在野

三月十九日 終院に打合はる

一、中國政府及日本政府ハ敵國實力ノ日ニ露
 國境内ニ蔓延シ其結果將ニ遠東全局ノ平
 和及安寧ヲ侵迫スルノ危険ヲラムトスルニ因リ
 此ノ情勢ニ適應シ且兩國力此次ノ戦争参加
 ノ義務ヲ實行セムカ為ニ連手協同ヲ行フニ處置
 速ニ協同スルモノトス
 ヲ考量セラルトカキル

二、前項述ル所ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル

外務省

後決定ノ事ヲ實行スルカ為ニ凡テ兩國陸海
 軍ノ此次ノ共同防敵戰略ノ範圍ニ付キ協力
 ヲ行フヘキ方法及其條件ハ兩國當局官憲ニ
 於テ之ヲ協定スヘク該當局官憲ハ相互ノ利害
 問題ニ付キ互ニ慎重誠實ニ隨時協議シ並ニ
 兩國政府ヨリ確定シテ時機ヲ俟テ實行ス
 ルモノトス

MT

211 42 216

MT

211 42 215

2-0020

0143

極秘

此次兩國ハ共同防敵ノ為メニ已ニ公文ノ交換
ヲ經タルカ本公文ノ有効期間ハ兩國ノ軍事當
局^ニ議定スヘシ共同防敵ノ為メニ日本軍隊
ノ支那國境内ニ在ルモノハ戰事終了後ヲ俟テ
日本軍隊ハ一切支那國境内ヨリ一律ニ撤退ス
ルコトヲ特ニ茲ニ聲明ス

外務省

MT

211 42 217

2-0020

0144

電報

政務局長



第一

三

七

本股六八

在支 林公使

第一七三號 極秘

電報

貴電第三七四号ニ関シ

三月十八日章公使来省本大臣ニ對

シ本件協定ハ別電第一七四号ノ趣旨

外務省

ニヨリ日本側提議ニ基リ公文交換ノ形

式ニテ取極メ度且右ニ開附シ別電第一

一七五号ノ趣旨ノ公文ヲ七交換スルコトト

致度旨ノ希望ヲ開陳セリ不取敢

御会込

別電第一七五号本公文ニ意
明瞭ナル不凡也

奉天中繼	電送大正	第一三〇五號	三月十八日	午後七時	分發
------	------	--------	-------	------	----

MT 211 42 219

MT 211 42 218

2-0020

0145

第一三〇七
七年二月廿七

電符録
本

政務局長

第

本
附
大
八

在支
林多伙

第一七〇號
極秘

三月十八日 奉公伙持年公文譯文 (長キリ)

第一七五號
極秘

三月十日 奉公伙持年公文譯文 (短キリ)

外務省

MT

211 42 220

2-0020

0145

極秘

三月十九日傳書上六日

漢文

折書

政務局長

第一號

神皇正統記

大正七年三月八日

(同紙系)

日支甲申協同の目的とする協定
ノ件ニ關シ大正七年三月八日
ノ閣議決定ニ基キ支那政府
トノ向ニ交渉ヲ遂ケタル處有
政府ノ意見合符ヲ見タルニ付

希ニ政府ヨリ別紙甲号及
乙号ノ趣旨ニヨリ在本邦支
那公使ニ照會シ同公使ヨリ別
紙丙号及丁号ノ趣旨ニテ帝國
政府ニ回答セシムルコトトシ以テ速
ニ本件ノ協定ヲ了スルコトトシ

別紙案件
丙ノ結果
幸田義典
ニ付シテ

MT

211 42 222

MT

211 42 221

2-0020

0147

極秘

本東三月廿
日大日堂
ト打合 佐軍
信四ノ見

甲号

以者輪流以上條陳志者必
政府之於之最近智逸國
露為亞國之於之及中事上

外務省

惟動中聯合各國ノ普同的

陳書ノ為ニ事 兼入 案通 夫

加ルニ事ニ事 願ニ左記ノ細願ニ

依リ貴國政府ト協同措置スル

ヲ貴國政府ト協同措置スル

為茲、貴國政府ニ提議スルノ

先榮ナ有之條

一 中國政府及日本政府ハ故國

MT

211 42 224

MT

211 42 223

2-0020

0148

朱書訂正六字
句修正案ヲ示ス

實力ノ日：露國境由ニ蔓延シ
其ノ移ルニ極速ニ至ルノ平和
及安寧ヲ侵迫スルノ危険アリ
トスルニ因リ此ノ情勢ニ適應シ
且古公カ此次ノ戦争参加ノ
義務ヲ負ハルニシテ速ニ協同
シテ行フヘキ要旨ヲ考定スル
事ニモトス

外務省

二、お決連を承：依リ兩國政府、
合意ヲ經タル後決意ニ事ヲ果
行スルカ爲ルモ古國陸海軍
・此次ノ共同防敵要務、稅
關、付協力ヲ行フヘキ方法及
其條件ハ由公商會ノ意見ニ於テ
之ヲ協定スヘク該會ノ意見ハ
相互ノ利害問題ニ付キ互ニ慎重

MT

211 42 226

MT

211 42 225

2-0020

0149

諸君は隨時協議の旨を各國
 政府より確立して時機を俟ち
 実行するモノトス
 右の對し何分も義勇の精神を得
 ざるに照會申進者、本大臣は
 茲に在り閣下、向て故意を表し候
 故是

外務省

MT

211 42 227

2-0020

0150

兩号

以上者輸枝路上係陳者英國
政府、於「新近相違必、露
和為國：於「改革」上及軍事止

外務省

一、情勢中聯合者國、其目的
限書、自「發生」時、
事、其「緊迫」加、

一、支那國政府、其「依り
支那國政府、其「依り

一、支那國政府、其「依り
支那國政府、其「依り

一、支那國政府、其「依り
支那國政府、其「依り

一、支那國政府、其「依り
支那國政府、其「依り

M.T

211 42 229

MT

211 42 228

2-0020

0151

(朱書証正六字
句修北案ヲ示ス)

倭軍の侵入^極未全爲ノ平和及
安寧ヲ侵迫スルノ危険アラハトスル
ニ因リ此ノ情勢ニ適宜ニ且亦
必カ此次ノ紛争参加ノ義務
ヲ履行セムカ爲速ニ協同シテ行
フヘキ要旨ヲ考呈スルモノトス
ニお項述レ所^{スルモノトス}依リ亦必政府ノ合
意ヲ得タル後次官ノ事ヲ案内
外務省
亦少力为凡ノ必要陸海軍ニ此次
ノ共同防敵要界ノ範圍ニ付キ
協力ヲ行フヘキ方法及其ノ条件ハ
方國者爲友意ニ於テ之ヲ協定
スヘク該者爲友意ハ相互利益
問題ニ付キ互ニ慎重誠實ニ協
時協議シ茲ニ亦必政府ヨリ確
定シテ時機ヲ俟テ実行スルモノトス

MT

211 42 231

MT

211 42 230

2-0020

0152

支那五政府に有るべき政府提議
ノ趣旨は全然同意せざるモノニテ
前記綱領に依り貴國政府
協同措置スルハ支那五政府ノ
欣快トスル所ニ有之候右に貴國政
府ノ訓令ニ基き回答中達爲る本
使ニ茲に閣下ニ向テ敬意ヲ表
シ候故是

外務省

MT

211 42 232

2-0020

0153

極秘

乙号

以爲備内政上係陸志 月

日貴村市公政府官：亦其共同防敵ノ爲公文ノ交換ノ了レ候處

外務省

市公政府ノ於テ右公文ノ有效期間

官ニ由テ軍事者爲、於テ協定

スル事ト爲交儀又市公政府ニ共同

防敵ノ爲：日本軍隊ノ支那国境内

ニ在ルモノハ總テ終了後ニ係テ

支那国境内ヨリ一律撤退スヘキ

事トシ特ニ茲ニ聲明スル

右照會中違當ノ事大正ニ茲ニ在リ

MT

211 42 234

MT

211 42 233

2-0020

0154

閣下、向テ敬名ヲ表シ候如也

MT

211 42 235

2-0020

0155

丁号

以書翰始啓上條條本口附
貴翰ヲ以テ 月 日 貴村南正
政府ヨリ 貴正共同防敵ノ為ニ之ノ

外務省

氣換テ了ニルカ貴正政府ニ有以
文ノ有效期ヨリ 兩正ノ軍事者為
ニ於テ 誠意ニルニト 為セ 友者佛照
局ニ成ル 友者 支那正政府ニ於
テ 同意ニ有之 友者 貴翰ヲ以
テ 貴國政府ニ 共同防敵ノ為ニ 日
中軍隊ノ 支那正境内ニ 在ルニ
終テ 終了後ニ 候テ 支那

MT 211 42 237

MT 211 42 236

2-0020

0156

玉境内ヨリ一律撤退スハナク特
聲明去歲時係着候
在在玉政府ノ訓令ニ基キ四卷
申達者ニ申使ニ至シテ閣下
向テ教養ヲ表シ候故也

外務省

MT

211 42 238

2-0020

0157

秘

第四

第5437號

附屬書類添付

大正七年三月十九日接達

駐露

第一課

別紙添付

機密第一〇〇號

大正七年三月十三日

在支那

臨時代理公使芳澤謙吉

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

日支軍事協同動作ニ関スル協定

案文を存ニ関スル件

貴電第一四二號ヲ以テ御表示ノ日支軍事

協同動作ニ関スル協定案文を存 劉崇傑

ノ依頼ニ應ジ Unofficial Translation トシテ同

氏ニ交付ノ次第ハ姓電第三四三號ヲ以テ及報

在支那日本公使館

告候處右を譯寫御参考迄存ニ及御送
付候間御査閲相成度此段申進候也

MT

211 42 240

MT

211 42 239

2-0020

0:58

JAPANESE LEGATION
PEKING.

Unofficial translation

(Confidential)

1. The Governments of Japan and China, when they see that the general peace and tranquillity in the Extreme Orient are threatened by the dispersion of the German influence in the said region, will consider in common the measures which should be taken to cope with the situation.

2. The means and the conditions of the co-operation of the Army and the Navy of Japan and China for the realization of what may be decided by mutual agreement between both Governments in accordance with the preceding Article will be arranged by the Military and Naval authorities of both countries, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest.

MT

211 42 241

2-0020

0159

電信課長

大臣 閣下

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

暗

北京発 大正七年三月

二十日午前

本野外務大臣

林公使

第三七八号 (極秘)

往電第三七四号ニ関シ(軍事協定ニ関スル文字句修正ノ件)

支那側字句修正ノ廉ハ章公使ヨリ

申出テタルコトト思料セラルル処在

修正申出ノ箇所本使参考迄ノ電報

アリタク本件協定ノテキストニ照シ

確定ノ上ハ英文ト共ニ是又電報

MT

211 42 242

尚三月十八日俄國代理公使

前同公使ヨリ本使ニ関シ質問

ニ付 貴電第一六〇号ノ抄ヲマツリ

目下非公式ニ談合ト申サレシ未ダ決

定ノ邊トモ至ラズルニ至リテ

本件成立ノ上ハ何レ聯合側各國

ハモ同意セラルルコトト思料セラルル

美佛兩國政府ハ成ニ少遠カク

預計スル方然ルベシト認メラル

付テハ此辺至急申送ニ上結果電

MT

211 42 242-1

2-0020

0160

示ヲ仰グ

奉天支店大正七年三月十九日手前二二三

MT

211 42 243

2-0020

0151

(一) 東京ノ内務省

三月廿七日午後五時

想出た口より御座る

政務司馬

第 一 部

開会

次

立井 本野大

第 一 部 西比利亞(秘) 状況甚々緊迫

ニ聯合諸國均ニ禍害ヲ及 オサント

スルノ形勢ノ呈スルニ至リ 殊ニ西比利亞ニ

外務省

作 持セル日本及支那南國ノ蒙ル

影響ハ一層深刻ナルニ 願之ニ對應

セカカ爲ノ日支南國共同協約ノ方途

ヲ講スルノ議兩國間ニ熟シ大体別

電第 号ノ趣者ニル軍事協

定ノ成立ヲ見ムトスルニ至レリトモテハ

貴友ノ誠ハク速カニ英國外務大臣

ニ面會シ以上ノ次第ヲ叙シタル上右

MTI 211 42 245 MTI 211 42 244

2-0020

0162

〔第二回及第三
回日露協約
者内、例ニ依ル〕

協定案ヲ内告セラル様至急電
板アリ及シ但シ右内告ハ本協定ノ
趣者ヲ諒解セラル様眼目トスル次第
ニテ之ニ對シ先方ノ意見ヲ誘致ス
ルコトハ可成難ク交渉ニ付右様
信ニ置カレナシ
右佛伊米各大使 担枕トシテ轉
電シテ大正ヨリ迄テ何分ノリ根申割
令スル迄何等難揚置テ執リサル様
附カ言シ置カレナシ

外務省

MTI 211 42 247

MTI 211 42 246

2-0020

0163

之勢重き事決りし

政務局長

第一課

在英

珍田大使

本野大臣

第

号別電

一、極東、地域ニ於テ全局、平和
及康寧カ獨逸勢力、同地域

外務省

ニ侵蝕スル結果侵迫セラル、ニトシ認

ムルトキハ日本國政府及支那國政

府ハ其ノ事態ニ適應セムカ為メニ

執ルハキ措置ヲ協同ニ考量スルニト

ニ、亦項ニ依リ日本國政府及支

那國政府合意、上決定スルニトアル

ハキ事項ヲ実行セムカ為メ方五

陸海軍、協力スヘキ方針及條

MTI

211 42 249

MT

211 42 248

2-0020

0164

件ハ由玉當る有慮、於テ協
定スヘク又該者有慮ハ相互利
害ノ問題ニ帯シ互ニ充分且隔
意ナク隨時協議スルコト

外務省

MT

211.42 250

2-0020

0165

大正七年三月二十日 東京朝日新聞

政務局長

第一課

3/20

之全全外外
押へ且内外
電報全郵止
ト斗斗スノ由也

九和園
承知人

守備

●日支重要交渉
△近く開始されん
政府は近き支那に對して重要なる自由を有せざるも日支兩國協力を
交渉を開始すべく政府各方面の準備 共助時局に對應するに共に我國の産
は既に決し居りて林公使歸任前詳細の 業遂支那開發に裨補せんとするも
に訓示する所ありたれば林公使は歸 のにして兩國の爲に極めて重要なる
任と共に或は既に交渉を始めたるや 性質を帯ぶるものなり云へり
も知れず其内容は茲に明白に記述す

MT

211 42 . 251

2-0020

0166

極秘

大正七年三月廿六日書、
上大臣に提出す

(閣議案)

日支軍事協同の目的たる協定ノ件：
閣下大正七年三月八日ノ閣議決定ニ基キ
支那政府トノ間ニ交渉ヲ遂ケル處兩國
政府ノ意見合致ヲ見ルニ付支那國政府
ヨリ別紙甲号ノ趣旨ニヨリ帝國政府：
照會ニ帝國政府ヨリ別紙乙号ノ趣

外務省

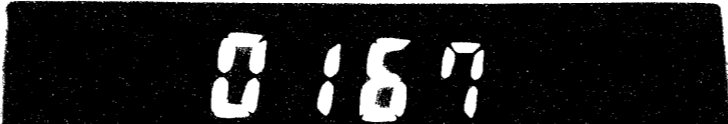
旨ニテ同公使ニ回答スルト同時ニ右ニ附
帶シ帝國政府ヨリ別紙丙号ノ趣
旨ニテ同公使ニ照會シ同公使ヨリ別
紙丁号ノ趣旨ニテ帝國政府ニ回答
セシムルコトトシ以テ連ニ本件ノ協定ヲ了
スルコトト致度

MTI

211 42 253

MTI

211 42 252



甲号

以書翰致致上候陳者 **支那** 政府ニ於テハ最
 近獨逸國 露西亞國 赤キル活動 國 發
 生 現下ノ時局ニ顧ミ左記ノ綱領ニ依
 リ貴國政府ト協同措置スルヲ貴我兩國
 ノ為必要ナリト信シ茲ニ貴國政府ニ提議
 スルノ先榮ヲ有シ候

一、**日本國政府及支那國政府ハ敵國實力ノ日**
 露國境内ニ蔓延シ其ノ結果將ニ極東
 全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危険
 アラハトスルニ因リ此ノ情勢ニ適應シ且
 兩國カ此次ノ戰爭ニ加シ義務ヲ實行セム
 カ為 **連** 協同 行フヘキ處置ヲ
 考案スルモノトス

二、前項ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル後決
 定スルコトアルヘキ事項ヲ實行セムカ為兩國陸
 海軍此次ノ共同防敵戰畧ノ範圍ニ付協力
 ヲ行フヘキ方法及其ノ條件ハ兩國當局官憲

外務省

MT

211 42 255

MT

211 42 254

2-0020

0168

ニ於テ之ヲ協定スヘク該當局官憲ハ相互ノ
利害問題ニ付互ニ慎重誠實ニ隨時協
議シ茲ニ兩國政府ヨリ確定シテ時機ヲ俟テ
實行スルモノトス

右ニ對シ何分ノ義御回答ヲ得度右照會申
進旁々^{中使}本^使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ
表シ候敬具

外務省

MT

211 42 256

2-0020

0169

乙 丙 群

以書翰致啟上候陳者貴國政府、於テ、
 達獨運國、案事軍國、亦ナル活動、
 現下ノ時局、顧ミ、左記ノ綱領、
 依リ、^希本邦國政府ト協同措置スルヲ貴我
 兩國必要ナリト信シ、^希本邦國政府ト提議セラ
 レタル本日附貴國、茲ニ致閱悉候
 一、本邦國政府及日本國政府、敵國、^露方ノ日、露
 國境內ニ蔓延シ其ノ結果將ト極東全局平和
 及安寧ヲ侵迫スルノ危険アラムトスル、因リ此ノ
 情勢ニ適應シ且兩國力此ノ戰爭参加ノ
 義務ヲ實行セムカ為連協同、^{連協同}進行シキ處
 置ヲ考慮スルモノトス
 二、前項ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル後決定
 スルコトアルキ事項ヲ實行セムカ為兩國陸海
 軍此ノ共同防敵戰略ノ範圍ニ付、協力ヲ行
 フキ方法及其ノ條件ハ兩國當局官憲ニ於
 テ之ヲ協定スルコト、該當局官憲ハ相互ノ利害

外務省

MT

211 42 258

MT

211 42 257

2-0020

0170

問題に付、互に慎重誠實に隨時協議シ、
 兩國政府ヨリ確定シテ時機ヲ俟テ實行スルモ
 ノトス
 本邦國政府ハ右貴國政府提議ノ趣旨ニ全然
 同感ヲ有スルモノトテ前記綱領ニ依リ貴國政府
 ト協議措置スルハ本邦國政府ノ欣快トスル所ニ有
 之候右本國政府ハ前記綱領ニ依リ四答中進歩ハ本
 邦國政府ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

外務省

MT

211 42 259

2-0020

0171

七
號
反

以書翰致啓上候陳者 月 日貴我兩國
政府間ニ兩國共同防敵ノ為公文ノ交換ヲ了
シ候處帝國政府ニ於テハ公文ノ有効期間
ハ兩國ノ軍事當局ニ於テ議定スルニトシテ致度
候將又帝國政府ハ共同防敵ノ為ニ日本軍
隊ノ支那國境內ニ在ルモノハ總テ戰事終了後
ヲ俟テ支那國境內ヨリ一律撤退スヘキニトシテ

外務省

特ニ茲ニ聲明致候

右照會申進立方、本大臣ハ茲ニ重テ閣
下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

MT 211 42 261

MT 211 42 260

2-0020

0172

丁
號

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ
月日貴我兩國政府間ニ兩國共同防敵
ノ為公文ノ交換ヲ了シタルカ貴國政府ハ右公
文ノ有效期間ハ兩國ノ軍事當局ニ於テ議
定スルコトト致サレ度旨御照會相成候處
右ハ支那國政府ニ於テモ同意ニ有之候將
又右貴翰ヲ以テ貴國政府ハ共同防敵ノ為ニ

外務省

日本軍隊ノ支那國境内ニ在ルモノハ總テ戰
事終了後ヲ俟テ支那國境内ヨリ一律撤
退スヘキ旨特ニ聲明相成致領承候
右本國政府ノ訓令ニ基キ回答申進彙本
使ハ茲ニ重子テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

MTI 211.42 263

MTI 211.42 262

2-0020

0173

for such co-operation

1. etc

2. etc

The Imperial Government, fully sharing the view ^{enthusias} ~~expressed~~ in the foregoing proposals, will be happy to co-operate with the Chinese Government ^{or} ~~strongly~~ the line above indicated.

I avail myself of this opportunity to renew to you & others the assurances of my highest consideration.

MT

211 42 916 254

0 1126712

(N
Viscount Motono (Mr. Chang)

Tokyo, March 25, 1918.

Monsieur le Ministre:

I have the honor to
acknowledge the receipt of your

Excellency's note under to-day's date,

in which you were so good as to
communicate to me that the gov-

ernment of China, believing that
in the present situation, ~~the~~ co-

operation with the government of

Japan ~~is~~^{is} the lines herein after
indicated
referred is highly important in

the interests of both countries, ~~and~~^{therefore}
authorized you to approach this

Government with a view to ~~arranging~~^{arranging}

MT

211.42265

2-0020

525

Japanese troops staying within
the Chinese territory for the pur-
pose of the joint defensive move-
ments against the enemy will be
completely withdrawn from such
territory ~~after~~ upon the termination
of the war.

MT

211.42

296

2-0020

2176

Declaration

In proceeding this day to
the exchange of notes between
the Government of Japan and
the Government of China with
~~reference~~ to on the subject of the
joint defensive movements against
the enemy, it is well understood
that the period within which
the said notes shall remain in
force will be determined by the
military and naval authorities
of the two powers. ~~The~~ It is
further understood that the

MT

21: 42

267

2-0020

21: 42

by the two governments, and shall
be put into operation at such
time as ^{may be deemed appropriate} the two governments may
mutually decide.

In requesting that your

Excellency may be so good as to

favor me with a reply to the fore-

going perhaps, I avail myself ^{of}

of this opportunity to renew to

^{you} the assurances of my highest

consideration -

Chang. Tsung-Hoang.

Extraordinary and

Minister Plenipotentiary

of the Republic of China.

MT

211 42 268

2-0020

21142268

Chinese and Japanese armed forces
in the joint defensive movements
against the enemy ^{for giving} ~~to give~~ effect
to the decision which may be ar-
rived at by the two governments
in common accord under the pre-
ceding clause. ^{These} ~~It~~ be arranged by
the competent authorities of the
two Powers, who will from time to
time consult ^{each other} ~~one another~~ fully
and freely upon all questions of
mutual interest. It is understood
that the matters ~~to be~~ thus arranged
by the competent authorities ~~with~~

MT

211 42 289

penetration of ~~the~~ hostile influ-
ence into ~~the~~ Russian territory,

threatening the general peace
and security ^{of} the Far East,
the Government of China and the
Government of Japan ^{above} promptly
consider in common the measures

~~to be taken~~ ^{to} be taken ^{in order} to meet the
 exigencies of the situation, and to
do their share in the Allied cause

for the prosecution of the present
war.

2 The ~~methods~~ ^{methods} and conditions
~~for~~ ^{of such} the co-operation between the

MT 211 42 270

from the Ministry of Education (Tokyo)
Tokyo, 9 March 25, 1918

機密

Monsieur le Ministre:

I have the honour to
communicate to your Excellency

that the Government of China,
believing that in the present
situation ~~of~~ co-operation with

the Government of Japan ~~stands~~^{are}
the lines hereinafter referred to

highly important in the interest
of both countries, ^{have} ~~are~~ authorized

me to approach your Government
with a view to ~~arranging~~^{arranging} for
such co-operation.

I remain, regard to the study

MT 211 42-271

2-0020

2181

In ~~the~~ communicating the
above to your Excellency under
instructions ^{from} of your Government,
I avail myself of this opportunity
to send to you, the assurances
of my highest consideration.

Handwritten signature
Ernest S. Johnson, Secy and Minister
of Affairs for the
Republic of China

MT

211 42 272

2-0020

0182

confident military and naval
authorities of the two Powers. I am
happy to state in reply that the
foreign proposal is accepted
by my Government. I am
^{happy} ~~glad~~ gratified to take note of
the declaration embodied in your
communication and acknowledge
that the Japanese ^{Statement} ~~Statement~~
within Chinese territory for
the purpose of ~~the~~ defensive move-
ments against the enemy ^{there} ~~is~~
completely withdrawn ^{from such territory} upon the

Termination of the war.

MT 211 42 273

2-0020

2183

(Note from Mr. Chang is Viscount Motono.)

Tokio, March 25, 1918.

Monsieur le Ministre:

With reference to the notes

exchanged on March 25 ~~is~~ ~~sent~~

between the Government of ~~China~~ ^{Japan} ~~China~~

and of ~~China~~ ^{Japan} on the subject of

their joint defensive movements

against the enemy, I have the

honour to acknowledge the receipt

of your Excellency's communication

under his-day's date, proposing on

behalf of your Government that

the period within which the said

notes ~~was~~ ^{have} ~~exchanged~~ are to remain

in force ~~with~~ ^{to} be determined by the

MT

211 42 274

2-0020

2184

same time, the Imperial govern-

ment are happy to declare that

the Japanese troops ^{Nations} ~~stay~~ within

the Chinese territory for the purpose
of ~~defensive~~ ^{incorporation} ~~with~~ ^{of the Chinese} ~~territory~~
of a ~~such~~ ^{movement} against the

enemy ^{shall} ~~with~~ be completed within
from such territory
upon the termination of the war.

I avail myself of this

opportunity to renew to you

Excellency the assurances of my

highest consideration

J. G. Mottora

Minister for Foreign Affairs

MT

211 42

275

2-0020

2185

Ms. A. 9. 2
Tokio, March 25, 1942

With reference to the

notes exchanged on March 25

~~note~~ between the governments

and of China ~~and~~ of Japan on the

subject of their joint defensive
movements against the enemy;

I have the honour to propose
on behalf of my Government

that the period within which

the said notes ^{are to} remain in force

^{shall} be determined by the compe-

tent military and naval authori-

ties of the two Powers. At the

MTI

211 42 276

17
211 42 276

2-0020

0185

電信課長
▲

大臣 閣了

次官 十b

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

四一(備) 北京發 大正七年三月二十日 後五三〇
本署着

本野外務大臣 林公使

第三九〇号

三月十九日 本使馮總統へ 進見ノ際 總統ハ北
滿ニ於ケル 形勢ニ 談及シ 其發展ニ 伴ヒ 武
器軍費 其他 何レモ 日本ノ 同情アル 救助
ヲ 仰クノ 必要 益々 緊切ナルヲ 感スル 次第
ナルカ 支那 現下ノ 實力ニ テハ 共同 動作ノ
範圍ハ 自國 領土内ニ 限ル 外 他キニ 付
其方針ニ テ 進行セシムル 意存ナリ 此義 據
相伝ハ 陸 外 務 省 長 官 へ

御會 送キヲ 請フト云ヘリ

奉天經由 三月廿一日 前九、五〇

MT

211 42 278

MT

211 42 277

2-0020

0187

電信課長

大臣

次官

本野外務大臣

林公使

三三暗

北書後
本省に於て本年三月二十二日前七。

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

第三九八号 極秘

陸軍第三七八号、閣下軍事委員長、新

雲鵬委員、参謀本部陸軍部ヨリ重喚文

田青年、劉嗣業、江壽祺ヲ任命スルコト、決

定シ尙奉天、吉林、黑龍江各省ヨリ各一名海

軍部ヨリ二名ヲ任命スルカ人各決定

次第通知ス、ハ、此外特未更、増員ノ場合

ニハ隨時通告ス、ハ、旨外交部ヨリ通報アリ

林公使 陸軍部ヨリ

一九〇五年三月二十二日、陸軍部ヨリ

MT

211 42 280

MT

211 42 279

2-0020

0188

分 0

78

次

第39號

大正七年三月廿二日接受

警政務

第一課

電報

參謀次長宛

在

北京齊藤少將

三月廿二日午後二時五十分

支極秘第一六四號

本職ハ本日段芝貴ヲ訪ヒ東京ニ於ケル軍事情同文書交換ノ手續ハ免モ角商議ヲ為セハ自ラ其目的ヲ達スル次第ニ付来ル二十四日頃ヨリ商議ヲ開キ遅クモ本月中ニ是非結了スル如ク取計ヒアリ度ク特局切迫遷延ヲ許サル旨ヲ申込ミタル処段モ其意ヲ諒シ本夜新雲鵬ニ至急商議ヲ開始スヘキ様督促ニ時日決定ノ上本職ニ通知スヘク約束セリ

陸軍

MT 211 42 281

2-0020

0189

大正七年三月廿二日 星期二

陸務部

第三課

極秘

秘受555之號

電報

宛在

有藤少將

二月十九日午後九時五分

森田

有田

原柳

510

支極秘第五十九號
 蒙古新疆液遣武官帶同昨十八日馮總統ニ謁見之際
 本職ヨリ我協商委員モ二十一日頃着京ス苦志屢
 時局ハ急速ニ進展シツ、アル以テ到着後迅速ニ協約
 ヲ成立ス様致度一ニ大統領御配慮ヲ乞フ旨述ヘタ
 所馮ハ日支軍事協約ハ元來自分ノ主張ナルニ依リ其
 成立ニ就テハ貴官ニ於テ安心アリ度ト答ヘタリ目下坂西
 少將ヨリ支那側ノ準備ヲ督促シツ、アリ
 宇垣少將ノ一行明二十日午前十時天津着ノ筈ナルハ

陸軍

早ク一行ノ来着ヲ望ミ各箇條ニ就テ支那側ニ良ク我
 主義ヲ徹底シ且先方ノ感情ヲ円満ナシメ又彼等ヲシテ
 立場ニ窮セシメサル様為ヌメ萬ト協議セントス
 林公使モ先分斡旋セラレツ、アリ今日迄外國人ノ好意
 スル形跡ナシ
 蒙古新疆液遣委員ハ陝西ノ通過安全ナルヤニ就キ
 未タ地方官ヨリ確答来ラス支那側ノ準備ヲ督促
 シ来ルニ至リ頃當地ヲ出入セシメントス

MT

211 42 283

MT

211 42 282

2-0020

0190

750

三月二十一日

長教通
五
五
五

日支軍事協同ヲ目的トスル協定ノ件ニ関シ
 大正七年三月八日ノ閣議決定ニ基キ支那
 政府トノ間ニ交渉ヲ遂ケタル處兩國政府ノ
 意見合致ヲ見タルニ付支那國政府ヨリ別紙
 甲號ノ趣旨ニヨリ帝國政府ニ照會シ帝國
 外務省
 政府ヨリ別紙乙號ノ趣旨ニテ同公使ニ回答
 スルト同時ニ右ニ附帶シ帝國政府ヨリ別紙
 丙號ノ趣旨ニテ同公使ニ照會シ同公使ヨリ別
 紙丁號ノ趣旨ニテ帝國政府ニ回答セシムルコ
 トトシ以テ速ニ本件ノ協定ヲ了スルコトヲ致度

MT

211 42 285

MT

211 42 284

2-0020

0191

中

(譯文)

以書翰後歷上候陳言支那國政府
 於下、現下、時局、顧之、左記、留、依、其、國
 政府、協同、措置、スル、方、必、要、ナリ、信、之
 茲、本、國、政府、訓令、依、其、貴、國、政府、提、議、スル
 光、榮、ヲ、有、シ、候

一、支那國政府及日本國政府、敵國勢力、日、
 露、玉、境、内、蔓、延、シ、其、信、果、物、極、東、全、局、

外務省

平和及安寧ヲ侵迫スルノ危險アラムトスルニ因リ
 此ノ情勢ニ適應シ且支那國力此次ノ戰爭考
 加、義務ヲ実行セムカ為行フヘキ處置ヲ速ニ
 協同考量スルモノトス

二、前項ニ依リ、支那政府、合意ヲ經タル後、決定
 スル下、アルヘキ事項ヲ実行セムカ為、支那陸海軍
 此次ノ共同防敵、範圍ニ付、協力ヲ
 行フヘキ方法及其條件ハ、兩國者、互ニ、相、互、ノ、利
 於、之、ヲ、協、定、ス、ヘ、ク、該、者、互、ニ、相、互、ノ、利
 害、問題ニ、付、互ニ、信、重、誠、實ニ、隨、時、協、議、シ

三〇五三〇

MT

211 42 287

MT

211 42 286

2-0020

0192

英、由國政府ヨリ確立シテ時期ヲ俟テ実行
スルモノトス

右對シ何令ノ義佛回着ヲ得處右照會
申達者、本使ハ茲ニ在テ閣下ニ向テ敬
意ヲ表シ候故具

三月二十五日

支那公使

切節外為本及具

外務省

MTI 211 42 288

2-0020

0193

乙
第

以書翰致啓上候陳者貴國政府：於
テハ現下ノ時局ニ顧ミ右記ノ僭欲ニ依リ貴國
政府ト協同措置スルヲ貴國政府ニ為必要
ナリト信シ帝國政府ニ提議セシタル本日附貴翰
茲ニ致函者依

一、日本國政府及支那國政府ニ致函勢カ、日
露國境由ニ蔓延シ其ノ結果將ニ極東全局

外務省

平和及安寧ヲ侵迫スルノ危險アラムトスルニ
因リ此ノ情勢ニ適應シ且貴國カ此次ノ戰爭
参加ノ義務ヲ履行セムカ為行フヘキ要旨ヲ
速ニ協同考慮スルモノトス

二、前項ニ依リ貴國政府ノ合意ヲ經タル後決定
スルモノヘキ事項ヲ履行セムカ為貴國陸海軍
此次ノ共同防敵禦界ノ範圍ニ付協力ヲ行フヘキ
方法及其ノ條件ニ貴國政府ノ同意ニ於テ之ヲ
協定スヘク該當局ノ同意ハ相互ノ利害問題ニ付
互ニ慎重誠實ニ隨時協議シ茲ニ貴國政府

MT

211 42

290

MT

211 42 289

2-0020

0194

支那

(譯文)

以者葡葡船艦上係陳者本日附貴船ヲ
以テ三月廿五日貴船由貴國政府向ニ由玉共回
防敵ノ為以文ノ交換ヲ了シタルカ貴國政府ハ
右以文ノ有效期間ハ由玉ノ軍事當局ニ於
テ議定スルニトシテ收サレカ者御照會去成候
處右ハ支那國政府ニ於テ之同意ニ有之候
物又右貴船ヲ以テ貴國政府ニ共回防

外務省

敵ノ者ニ日本軍隊ノ支那國境内ニ在ル
モノハ總テ軍事終了後ヲ俟テ支那國境
内ヨリ一律撤退スヘキ者特ニ聲明去成
候領事候
右中國政府ノ訓令ニ基キ回答申達為
右使ハ茲ニ在テ閣下ニ向テ敬者ヲ表シ候

三月二十日

支那

支那多使

支那多使

MTI

211 42 295

MTI

211 42 294

2-0020

0197

(第二回及第三
回日露協約
書付、例三條)

右由告「本協定ノ趣」者ヲ諒解
セシムルヲ願フトスル次第ニテ之ニ對
シ先方ノ意見ヲ請フタルコトハ可成
難ク交渉ニ付右極限ニ置カレ
ニ至リ

右主佛伊米各大使ニ會進極
秘トシテ轉電ニ且中大使ヨリ進テ
何令ノ為訓令スル迄何等要
措置ヲ執ルル極限言ニ置カレ

外務省

MT 211 42 298

2-0020

0199

Declaration.

In proceeding this day to the exchange of the notes between the Government of Japan and the Government of China on the subject of the joint defensive movements against the enemy, it is well understood that the period within which the said notes shall remain in force will be determined by the military and naval authorities of the two Powers. It is further understood that the Japanese troops staying within the Chinese territory for the purpose of the joint defensive movements against the enemy will be completely withdrawn from such territory upon the termination of the war.

MT

211 42 299

2-0020

0200

and to do their share in the Allied cause for the prosecution of the present war.

2. The means and conditions for the co-operation between the Japanese and Chinese armed forces in the joint defensive movements against the enemy, to give effect to the decision which may be arrived at by the two Governments in common accord under the preceding clause, will be arranged by the competent authorities of the two Powers, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest. It is understood that the matters to be thus arranged by the competent authorities will be put into operation at such time as the two Governments may eventually decide.

The Imperial Government, fully sharing the views embodied in the foregoing proposals, will be happy to co-operate with
the

MT 211 42 301

the Chinese Government along the line above indicated.

I avail myself of this opportunity to renew to your Excellency the assurances of my highest consideration.

MT 211 42 300

2-0020

0201

FR

Monsieur le Ministre:

I have the honour to acknowledge the receipt of your Excellency's note under to-day's date, in which you were so good as to communicate to me that the Government of China, believing that in the present situation, its co-operation with the Government of Japan along the line hereinafter indicated is highly important in the interest of both countries, has authorized you to approach this Government with a view to arrangement for such co-operation.

I. Having regard to the steady penetration of the hostile influence into the Russian territory, threatening the general peace and security in the Far East, the Government of Japan and the Government of China will promptly consider in common the measures which may be taken to meet the exigencies of the situation,
and

MT 211 42 302

2-0020

0202

time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest. It is understood that the matters to be thus arranged by the competent authorities will be put into operation at such time as the two Governments may eventually decide.)

In requesting that Your Excellency may be so good as to favour me with a reply to the foregoing proposals, I avail myself of this opportunity to renew to you the assurances of my highest consideration.

MT

211 42 303

2-0020

0203

MT 211 42 304

在空

(2)

第一六〇號

(但本電、朱言性紙内イナ)

電送第一三六四號
七年三月廿八日 八時十分發

Monsieur le Ministre:

I have the honour to communicate to Your Excellency that the Government of China, believing that in the present situation, its co-operation with the Government of Japan along the line hereinafter indicated is highly important in the ~~in~~ interest of both countries, has authorised me to approach your Government with a view to arrangement for such co-operation.

1. Having regard to the steady penetration of the hostile influence into the Russian territory, threatening the general peace and security in the Far East, the Government of China and the Government of Japan will promptly consider in common the measures which may be taken to meet the exigencies of the situation and to do their share in the allied cause for the prosecution of the present war.

2. The means and conditions for the co-operation between the Chinese and Japanese armed forces in the joint defensive movements against the enemy, to give effect to the decision which may be arrived at by the two Governments in common accord under the preceding clause, will be arranged by the competent authorities of the ^{two} Powers, who will from

2-0020

0204

電信課長 支

大臣 了

次官 十 乙

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

四二八〇 平 北京発 大正七年三月 三十三百五十八三

本野外務大臣 林公使

第 四 〇 〇 号

三月二十二日ノ北京天津タイムスハ「日本
ノ對支勸告」ト題スル北京通信員
ノ通信ヲ掲載セリ又大要ヲノ通り
最近支那ノ於ケル日本ノ地位ノ固レ
何事カノ發展ヲ 顕出セバク 豫想セラレ
タルガ日本ハ果然内外ノ問題ノ固レ
極度ノ位ニ至リ

52

MT 211 42 305

確率ヲルテ解ニ到達セシガ為メ支那ノ
對支強要スル所アリトテ音ヲ聞知シタリ
吾人ノ得ルル報道ニ依レバ日本公使
護ハ林公使歸任ニ莫クシテ數日前支
那政府ニ一之書ヲ提示シテ之ガ謝印
ヲ得タルヲ知ル

猶云、彼ガ極東ノ蔓延シテ安寧度年
和ヲ得化セシルハ、虞アリト云キ
以テ兩國ハ在在然ニ對應セシカラス

MT 211 42 306

2-0020

0205

共同動作ニヨリ一致ノ措置ヲ執ルモトニ
同意ス(二)前項ノ目的ヲ達成セシメ
為メ兩國ハ各軍事委員会ヲ任命シ
テ実行セラルベキ措置ノ細目ニ付キ
討議セラルモトニ同意ス

(續)

大正七年三月二十三日

MT

211 42

307

2-0020

0206

限等も明定せらるる事、事實ハ人ヨリテ
 頗ル疑懼、念ヲ抱カシムルコト是リセノアリ
 林右使帰任以來又存問題ニ関シ親シク
 大徳侯ニ進言スル所アリタリガ在會見
 真相ハ未ダ明カナラズナルモ大徳侯ニ
 取リテハ頗ル芳バシカラスモノアリシヤ
 傳ハルル日本書局ニシテ存問題ニ対
 スル他ノ疑惑ヲ一掃セシトセバ須ラク速
 カニ右提議ノ目的ヲ明カシテ之ヲ周知
 セシムルヲ要ス (終リ)
 (奉天宛 大正七年三月二十三日午三時)

MT 211 42 310

2-0020

0208